様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：２４３０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３４７７

研究課題名（和文）対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive research on Buddist scriptures which were transmitted from China,Korea in Tsushima

研究代表者
横内　裕人（YOKOUCHI, Hiroto）

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：５０７０６５２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,500,000円

研究成果の概要（和文）：東アジアにおける日本・朝鮮・中国の文化交流を考える基礎情報を得るため、長崎県対馬市に所在する渡来経巻を悉皆調査した。具体的には、多久頭魂高麗版補足調査・同和版大般若経、東泉寺五部大乗経、金剛院高麗版大般若経・古文書、西福寺元版大般若経、妙光寺元版大般若経の詳細な目録を作成し、他の寺院に所蔵される経巻との比較検討を通じて、これらの経巻の成立・伝来を考察した。また九州国立博物館において特集展示『版経東漸』展を行い、調査成果の普及還元に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
対馬における渡来経巻のほぼすべてについて悉皆調査を行った。対馬に所在する渡来経巻は、朝鮮半島由来の高麗版と中国由来の元版とからなる。11世紀から15世紀にかけての高麗・朝鮮時代の版経、14世紀の元時代の版経など、バリエーションに富む版経が所在している。高麗初雕版・再雕版の経巻は勿論、中国由来の元普寧寺版・元官版ももとは朝鮮半島に所在し、対馬宗氏と朝鮮王朝との交渉により対馬にもたらされたことが判明した。特に、金剛院大般若経が日本に伝来する最古級の高麗再雕版であることや、従来その性格に議論があった東泉寺華厳経が元官版であることが判明した点は大きな成果といえる。

研究成果の概要（英文）：In order to consider interactions of Buddism among Japan,Korea and China,the researcher collected basic information of Buddist scriptuers transmitted from China,Korea in Tusima.We made detailed catalogues of the Tripitaka Koreana owened by Takuzutama-jinjya Shrine, Tosen-ji Temple,Kongo-in Temple,Saifuku-ji Temple and Myoko-in Temple.We campared some Tripitaka to examine the period when it was printed and transmitted from Korea tu Tusima. At the Kyushu National Museum, a special feature exhibition "Eastward Expansion of Printed Sutras" was held, and efforts were made to disseminate and return the research results.

研究分野：日本中世史

キーワード：渡来経巻　高麗版　元版　大般若経　大蔵経　対馬宗氏

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本と中国大陸・朝鮮半島との結節点にあたる長崎県対馬市は、日本国内有数の中国・高麗版の所在地である。対馬に所在する高麗時代の版本大蔵経・大般若経、元時代の版本大般若経・五部大乗経などは、中世の日本と中国・朝鮮半島との交流の中でもたらされたもので、すでに中国・韓国では失われ、世界的にみても唯一と目される文化財が含まれている。たとえば平成 23 年に国重要文化財に指定された長松寺（上対馬町）所蔵の初雕版高麗大般若経などがある。

この他には、

（ア）多久頭魂神社（厳原町豆酘）所蔵の高麗再雕版大蔵経（長崎県指定文化財）1012 冊

（イ）金剛院（厳原町豆酘）所蔵の高麗版大般若経（未指定）

（ウ）西福寺（上対馬町西泊）所蔵の元版（普寧寺版）大般若経（長崎県指定文化財）429 帖

（エ）東泉寺（豊玉町仁位）の元版（弘法寺版）五部大乗経（長崎県指定文化財）208 帖

（オ）妙光寺（上県町伊奈）の元版（普寧寺版）大般若経　（対馬市指定文化財）596 帖

などがある。（山本信吉「対馬の経典と文書」『仏教芸術 95　対馬・壱岐の美術特集』、1974 年）

特に（エ）には、13 世紀後半に元・大都で開版された弘法寺版系大蔵経の一部とみられる華厳経が含まれており、他に確実な類本を見ない経巻として世界的にみて貴重な文化財である。

日本と中国・朝鮮半島との文化的交流を示すこれらの経典は、その重要性にもかかわらず、概要調査が行われたのみで、保存管理や国指定文化財に指定するための悉皆目録が作成されず現在に至っている。その理由は、離島に所在するという地理的な制約や、数が膨大であること、調査には高度な専門性が必要とされ、時間・費用と人的な条件が整わないことが挙げられる。近世・近代に島外に流出してしまった渡来経巻もあり、書誌学上のデータの蓄積が不足していることや、日本と中国・朝鮮半島との文化交流の背景がいまだ十分にはあきらかでないことも、経典の文化財的価値の決定を遅らせている原因であった。対馬の渡来経典の多くが、文化財的価値の重要性が叫ばれながらも、十分な評価がされず、無住の寺社に収蔵されてきたのである。

近年、島内では渡来文化財の盗難が多発しており、平成 18 年に（ウ）西福寺大般若経 170 帖が、平成 24 年（ア）多久魂神社大蔵経１冊が盗まれ、現在も行方が知られない。島内渡来経典の保存措置は危急の事態に直面している。このような管理状況を一刻でも早く改善し、万全の保存措置を講じるためにも、東アジア宗教史料の学術的基準のなかで渡来経典を評価する責務がある。

以上のことから研究代表者の横内は、科学研究費「対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の基礎的研究」（平成 25～26 年度）により、（ア）多久頭魂神社所蔵の高麗再雕版大蔵経の詳細調査に初めて着手した。これにより、従来知られていなかった印刷・製本に関わる墨書等を多数発見し、また島内に現存する唯一の再雕版大蔵経が 15・16 世紀ごろの朝鮮時代に印刷されて対馬にもたらされたことなどが解明できた。しかし、印刷・製本の年次や輸入の履歴を直接示す墨書がなく、さらに未調査の断簡が新たに多数発見されたため、今後の継続調査が必要となった。

この大蔵経の印刷・製本の年次を決定するには、対馬だけでなく、日本国内に所蔵される再雕版大蔵経の書誌データを広く収集し、版面の状態、本の形状等の比較が必要である。また、経典という枠を取り払い、朝鮮本全体の書誌学的知見に基づいた評価、あるいは、経典の材料となった料紙そのものに着目して成立年代等を確定していく作業も必須である。さらには、経典輸入をめぐる対馬と朝鮮との歴史的背景を朝鮮側の史料にもとづき精査する必要もある。

上記の諸研究から得られる知見を総合し、識語を欠く経典であっても、その学術的価値を追求することが可能な状況であるため、従来、個別に行われてきた諸研究を統合することで、対馬に所在する渡来経巻の意義を解明することが求められていた。

２．研究の目的

本研究は対馬所在の渡来経巻のすべてを対象に、詳細な悉皆調査を行うことを目的とした。また比較検討のために、島外に流出した経巻の特徴を網羅的に集成し、朝鮮本の料紙・書誌情報を収集して、渡来経巻を総合的に評価検討することとした。従来、対馬渡来経典の印刷時期や渡来の背景は、経巻に書き込まれた文字情報を頼りに進められてきたため、識語を欠く経巻については、学術的評価が立ち後れ、十分な保存管理体制が取られてこなかった。

本研究の遂行により、識語のない経巻についても、形状・法量・料紙・印刷面の状況など、さまざまな要素から総合的に判断することにより、文化財的価値の解明を目指した。これにより我が国における渡来経巻、特に高麗版の書誌情報が把握されることとなり、対馬という国内一地域のみならず東アジアにおける仏教経典の流通の基礎資料を提供できると考えた。さらに東アジア共通の宗教遺産として保存することで、日本・韓国・中国の交流を跡づける第 1 級の資料として、博物館における展示などを通じて利活用できる文化資源化を図ることとした。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者を代表とする調査団を組織して、①原本詳細調査・所在確認調査と、②その結果得られた調査データの整理・分析・研究の二本立てで遂行した。さらに①②で得られたデータを精緻化するため、日本・韓国に所在する類似の経巻を比較調査した。

①原本詳細調査は、長崎県立対馬歴史民俗資料館を現地調査・原本研究の現地拠点に定め、研究代表者の所属する京都府立大学をデータ整理・分析研究の拠点とした。また 20@年度より対馬歴史民俗資料館が改修工事となり、調査対象の寄託資料が九州国立博物館に移動したため、九州国立博物館で調査を継続することとなった。

現地における調査は、経巻一点毎の書誌的な悉皆調査を行い、個別経巻の文化財的価値を把握することに努めた。研究代表者及び研究協力者で調査団を組織し、経巻の書誌情報調査を行った。その際に、２人１組で１台のパソコンを用い、調査データを直接入力し情報をデータベースに蓄積した。調査項目は、経巻の性格に応じて取捨選択したが、版経に特徴的なおおむね下記の項目を記録した。

【書名】【題】（外題、千字文、覚外題、首題、尾題）【員数】【寸法】【欠損状況】【表紙】【紙数】【刊記】【版記場所】【刻工名】【備考】（巻中・見返等の墨書・印記、欠筆、音義・校勘後跋）

特に料紙については、現在の新知見を活かし、経巻１点毎に検討した。必要に応じて収納函の形状等を記録した。

所有者の許可を得て、調査に必要な最小限の写真撮影をデジタルカメラで行った。

②データの整理は、京都府立大学にて行い、現地で得られたデータの入力と整序を行った。

③比較調査は、詳細調査との比較検討が可能なデータを収集した。

以上の調査研究により得られた成果をもとに、九州国立博物館の企画展示にて対馬所在の経典を展示した。

４．研究成果

（１）調査経過

【平成 28 年度】

平成 28 年 6 月 13～17 日、9 月 12～16 日に、対馬歴史民俗資料館において、多久魂神社大蔵経補足調査と和版大般若経の調査を行った。10 月 29 日には、多久頭魂神社大蔵経の版面比較のため相国寺（京都市）にて高麗再雕版大蔵経・元版大般若経の調査を行った。11 月 8～10 日に、対馬歴史民俗資料館において多久頭魂神社和版大般若経補足調査と豆酘金剛院にて高麗再雕版大般若経の予備調査を行った。平成 29 年 1 月 6～9 日に韓国全南大学・東国大学・中央博物館・光州博物館において韓国所在の再雕版の所在情報・書誌情報の収取を行った。1 月 21～23 日に対馬歴史民俗資料館において多久頭魂神社経巻の補足調査・研究会を行い、渡来経巻を所有する島内寺社の現地踏査を行った。3 月 24・25 日に対馬歴史民俗資料館にて宗家近代文書における大蔵経関係資料の調査を行うとともに、文化財所有者と調査遂行方法についての協議を行った。調査後に、京都府立大学においてデータの整理を行った。

【平成 29 年度】

平成 29 年 6 月 11～15 日に、九州国立博物館において東泉寺五部大乗経および西福寺元版大般若経を調査した。8 月 27～30 日に、韓国東国大学校・国立ハングル博物館・国立中央博物館・韓国学中央研究院蔵書閣において高麗版ほか朝鮮時代の古文書を実見し、所在情報収集を行った。9 月 11～15 日に、対馬金剛院にて再雕版大般若経と古文書調査、九州国立博物館にて東泉寺・西福寺経巻を調査した。調査後に、京都府立大学においてデータの整理を行った。

【平成 30 年度】

平成 30 年 7 月 26～28 日に、九州国立博物館において妙光寺元版大般若経・西福寺元版大般若経の調査を行った。平成 31 年 2 月 8～11 日に、韓国海印寺・慶北大学校・中央博物館・ソウル大学において主として再雕版大蔵経の原本調査を行った。2 月 16～18 日に、九州国立博物館において妙光寺元版大般若経・西福寺元版大般若経の調査を行った。調査後に、京都府立大学においてデータの整理を行った。3 月 21 日に京都府立大学において調査成果中間報告会を開催した。

【平成 31 年度】

平成 31 年 5 月 8 日、対馬豆酘金剛院・対馬市役所において科研成果展覧会（九州国立博物館）の開催方法について協議した。令和 1 年 6 月 29 日～7 月 2 日に、九州国立博物館において妙光寺元版大般若経の調査を行った。10 月 29 日～12 月 22 日に、九州国立博物館特集展示にて『版経東漸ー対馬がつなぐ仏の教え』を開催し、本科研関係者が企画・調査・図録執筆を担当した。11 月 9・10 日に対馬峰地区公民館・対馬市交流センターにおいて、17 日に九州国立博物館において『版経東漸』展の関連講演会を開催し、本科研の調査成果を公開し普及を図った。令和 2 年 2 月 11 日に京都府立大学において総括報告会を開催した。

（２）調査成果の概要

対馬の渡来経巻を悉皆調査した結果は、現在対馬から流出した経巻を含めて、以下の様にまとめられる。

渡来系版経は、朝鮮半島由来の高麗版と中国由来の宋版・元版とからなる。まず高麗版であるが、初雕本大蔵経の一部である大般若経 586 帖が琴・長松寺に伝存している。初雕本大蔵経は、世界的に見ても伝存稀で、特に大般若経でまとまったものは、長松寺と壱岐安国寺 219 帖のみである。また再雕本は、大蔵経が 2 部（豆酘・多久頭魂神社、金剛峯寺）と大般若経が 1 部（豆酘・金剛院）遺る。本科研で調査した結果、金剛院の大般若経は、元統 2 年(1334)と至元 4 年(1338)の崔文度の奥書があり、印刷の時期が知られる最古の再雕本であることが判明した。高野山金剛峯寺に所蔵される大蔵経は、1 巻 1 帖の折本で 6,285 帖が残る。もうひとつの大蔵経である多久頭魂神社本は、もと同神社の前身であった豆酘観音堂に伝来したものである。本科研の調査によって、体裁は朝鮮時代の大型袋綴冊子本で、表紙を含めて原装を保っており、おそらくは 15 世紀世祖代の印刷になることが判明した。相国寺・増上寺などの他に伝わる朝鮮本が後世の修理に

より装訂を替えている点を鑑みると、多久頭魂本は、朝鮮時代の再雕本印刷の工程を推測できる遺品として重要であるといえる。

次に中国の版経は、磧砂版大蔵経と普寧寺版の大般若経がある。前者は対馬から流出し、現在、杏雨書屋所蔵になるが、もとは伊津八幡宮（木坂、上津八幡宮）に伝来したことが裏付けられた。後者は、西泊・西福寺と伊奈・妙光寺に伝来する。これらの 3 点は、本科研により、いずれも高麗時代末期に高麗国の高官や僧侶が元に注文発注した版経の遺品であることが裏付けられ、元と高麗の親密な政治関係のもと、国を跨いで高麗にもたらされたことがわかった。当時、高麗からは多数の僧侶が入元し、江南地域の禅僧との交流の盛期を迎えているが、対馬に遺る中国版経は、こうした 14 世紀の中朝関係が生み出した文化遺産であると意義づけられる。

中国版経で、東泉寺に伝わる華厳経も注目される。この八十巻華厳経のなかに、1 紙 7 面からなる白楮紙のもの 71 帖がある。一紙約 80 センチの長尺の料紙で、他に類例稀な版本大蔵経の一部である。この大蔵経は、これまで弘法寺蔵あるいは元の官蔵に当たるのではないかと取り沙汰されてきたが、本科研調査では官版であると結論づけた。本華厳経は元代に印刷されたのち、明初までは蘇州に伝来したことが識語からわかり、その後、朝鮮を経由して対馬にもたらされたと推測される（伝来経路については再考の余地を残している）。

本科研では当初調査対象にはしていなかったが、和版にも注目されるものがあることがわかった。前述の再雕本高麗大蔵経を伝える豆酘・多久頭魂神社からは、いわゆる「東福寺版」と呼ばれる大般若経が新たに 318 帖発見された。巻第一に宗貞盛・成職父子の連署があり、経典の体裁からも 15 世紀半ばの成立と考えられる。また小船越・梅林寺にも、「東福寺版」大般若経があり、やはり大檀越宗貞盛・成職、檀那早田新左衛門尉らの銘があるという（未調査）。樫根・法清寺にも宗氏寄進銘をもつ和版の大般若経がある（未調査）。大般若経以外では、前述の仁位・東泉寺に応永 21 年相国寺鹿苑院で開板された五部大乗経（磧砂版覆刻と推測。除・元版華厳経）を調査した。いずれも室町時代中期に京都からもたらされた可能性が高い。中国・朝鮮からの渡来経典ばかりでなく、日本の版経の占める比重も大きい。渡来版経・和版を含めて、伝来や利用の過程を跡づけることで、対馬宗氏の宗教政策解明に寄与すると思われる。

本科研調査によって学術的価値が明らかになった多久頭魂神社再雕版大蔵経、金剛院高麗再雕版大般若経が、重要文化財に指定されたことも特筆される。

（３）今後の展望

対馬の文化財保護を目的に開始した本科研のデータは、日本各地に残る渡来経巻調査の参考になるものを含んでいる。今後は、こうした日本各地の渡来経巻の調査を進め、学術的価値の確定を進める必要がある。なお本科研の調査成果は前述の九州国立博物館『仏教東漸』展において、多くの原本を展覧し、また鮮明な図版と解説で社会的な公開はできた。しかし詳細な目録は、当初予算が減額されたこともあり、書籍の形では目録発刊がかなわなかった。目録を発刊することで、他寺社所蔵の経巻との比較検討も可能になるため、何らかの資金を獲得してできるだけ早期の発刊を目指したい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 馬場久幸	４．巻 第68巻2号（150号）
２．論文標題 対馬金剛院所蔵の高麗版『大般若波羅蜜多経』についてーこれまでの調査との比較を中心として	５．発行年 2020年
３．雑誌名 印度學佛教學研究	６．最初と最後の頁 886-881
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 馬場久幸	４．巻 第75輯
２．論文標題 金剛院所蔵の高麗版『大般若波羅蜜多経』ー墨書、奥書、蔵書印の検討を中心としてー	５．発行年 2019年
３．雑誌名 石道論叢	６．最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 瓜生翠	４．巻 45
２．論文標題 対馬渡来経典のいま	５．発行年 2019年
３．雑誌名 対馬の自然と文化	６．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 馬場久幸	４．巻 68
２．論文標題 日本所蔵の高麗大蔵経と外蔵ー大蔵経の範疇と外蔵の価値についてー	５．発行年 2017年
３．雑誌名 石堂論叢	６．最初と最後の頁 113-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 馬場久幸	４．巻 70
２．論文標題 日韓両国の八万大蔵経の研究とその成果ー鄭安と分司大蔵都監を中心としてー	５．発行年 2018年
３．雑誌名 石堂論叢	６．最初と最後の頁 65-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 富田正弘	４．巻 27
２．論文標題 朝鮮国文書料紙について－日本中世近世文書料紙との比較－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	６．最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　3件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 対馬金剛院所蔵の高麗版『大般若波羅蜜多経』について
３．学会等名 佛教史学会　４月例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 高麗大蔵経印出本に見える墨書の検討ー世祖代の印出本を中心として
３．学会等名 ソウル大学校奎章閣韓国学研究院2019年韓国学学術大会主題「東アジアの仏教と高麗大蔵経」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 対馬金剛院所蔵の高麗版『大般若波羅蜜多経』についてーこれまでの調査との比較を中心として
３．学会等名 日本印度学仏教学会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 多久頭魂神社所蔵高麗版大蔵経の印刷年代の検討
３．学会等名 佛教史学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 高麗元干渉期の大蔵経印刷とその目的－特に元普寧寺版大蔵経と高麗版大蔵経を中心としてー
３．学会等名 東アジア仏教研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 瓜生翠
２．発表標題 対馬に遺る渡来経典
３．学会等名 平成30年度対馬市博物館関連事業講演会
４．発表年 2018年

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 日韓両国の八万大蔵経の研究とその成果
３．学会等名 河東郡・河東文化院主催、東亜大学校石堂学術院主管主催　2017年度国際カンファレンス「鄭安と八万大蔵経」（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 横内裕人
２．発表標題 対馬の渡来経巻―対馬観の再考へ―
３．学会等名 第１９回洛北史学会定例大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 馬場久幸
２．発表標題 日本所蔵高麗大蔵経と外蔵ー大蔵経の範疇と外蔵の価値についてー
３．学会等名 東亜大学校石堂学術院2016年度国内学術大会　「国宝32号　陜川　海印寺大蔵経版の校正体系と範囲」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 横内裕人
２．発表標題 書跡文化財を伝えるということ―対馬の経典を例に―
３．学会等名 全文連総会講演会（招待講演）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計1件

1．著者名 九州国立博物館	4．発行年 2019年
2．出版社 西日本新聞印刷	5．総ページ数 96
3．書名 九州国立博物館特集展示図録『版経東漸ー対馬がつなぐ仏の教え』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

横内裕人「対馬と版本仏教経典ーアジアの至宝を未来に伝える」九州国立博物館『版経東漸ー対馬がつなぐ仏の教え』（西日本新聞印刷、2019年、10-15頁）
松浦晃佑「渡来版経キホンのキ」「版経の調査って何するの？」（同上、16-19頁）
瓜生翠「豆酘における文化財調査史」（同上、30-33頁）
富田正弘「多久頭魂神社高麗再雕版大蔵経の料紙について」（同上、38-42頁）
馬場久幸「朝鮮世祖代の大蔵経印刷」（同上、43-45頁）
梶浦晋「元の官版大蔵経」（同上、54-56頁）
荒木和憲「西福寺蔵の元版大般若経と対馬宗氏」（同上、61-63頁）
須田牧子「中世後期の大蔵経輸入の概観」（同上、72-76頁）
解説：横内裕人（長松寺高麗版大般若経）、瓜生翠（金剛院高麗版大般若経）、馬場久幸（多久頭魂神社大蔵経、高野山金剛峯寺高麗版大蔵経）、梶浦晋（東泉寺五部大乗経）、松浦晃佑（妙光寺元版大般若経、元版大般若経経箱、石田三成奉納木額、磧砂版大蔵経幅子、磧砂版大蔵経籤、磧砂版大蔵経経箱）、須田牧子（杏雨書屋磧砂版大蔵経）、大澤信（菩薩坐像、金鼓、梵鐘）

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	馬場　久幸 (BABA Hisayuki) (10620693)	佛教大学・公私立大学の部局等・非常勤講師 (34314)	
研究分担者	一瀬　智 (ICHINOSE Tomo) (20543698)	福岡県立アジア文化交流センター・その他部局等・主任研究員 (87108)	
研究分担者	松浦　晃佑 (MSTUURA Kousuke) (40774807)	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部企画課・研究員 (87106)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	須田　牧子 (SUDA Makiko) (60431798)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究協力者	池田　寿 (IKEDA Hitoshi)	文化庁・文化財部美術学芸課・元・主任文化財調査官	
研究協力者	山口　華代 (YAMAGUCHI Kayo)		
研究協力者	古川　祐貴 (HURUKAWA Yuki)		
研究協力者	瓜生　翠 (URUU Midori)		
連携研究者	富田　正弘 (TOMITA Masahiro) (50227625)	富山大学・人文学部・名誉教授 (13201)	
連携研究者	永村　眞 (NAGAMURA Makoto) (40107470)	日本女子大学・文学部・名誉教授 (32670)	
連携研究者	荒木　和憲 (ARAKI Kazunori) (50516276)	国立歴史民俗博物館・研究部・准教授 (62501)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	杉山　豊 (SUGIYAMA Yutaka) (50733375)	京都産業大学・外国語学部・准教授 (34304)	
連携研究者	斎木　涼子 (SAIKI Ryouko) (90530634)	奈良国立博物館・美術室・主任研究員 (84603)	